

// テーマ

公共地としてのデジタルサイネージを考える

// 講師

セオ・ヒョジョン Seo Hyo-jung

// ファシリテーター

稲福 孝信 Inafuku Takanobu

林 洋介 Hayashi Yosuke

// メンバー

阿部 和樹 Abe Kazuki

石井 飛鳥 Ishii Asuka

川 明日香 Kawa Asuka

Senbaku

shintaro ono

Joyce den Hertog

永田 一樹 Nagata Kazuki

浪川 洪作 Namikawa Kosaku

どんな種類の商品でも売れるように空枠が作られるだけのデジタルサイネージを、公共スペースとして取り戻したい。自分たちが暮らしている土地に、自分たちのメッセージを伝える余地がない。そうであれば、巨大なデジタルサイネージを、共同体のものとして創出するのはどうだろうか？

美意識や人間性の代わりに広告を浴びせ、一方的に欲望を吹き込んでくるデジタルサイネージを、私たちの「欲望」で塗り替えよう！

実現に向けて講師から紹介したアイディアは以下の4つ

- 街が持っている独特のリズムを視覚化する
- 騒々しい広告スクリーンを透明化する方法を考える
- 街中の公園のようなスクリーンを作る
- スクリーンの四角の外にあるもっと大きい世界を想像する

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] に市民が参加し、デジタルテクノロジーを学び、仲間と協働して制作する。都市のデジタルサイネージに自分やコミュニティのメッセージをアートの形で発信する。ただ見るだけでなく、作る側にもなることで、自分たちが暮らす「公共地」について考えてもらいたい。